

[総論]

# 部品の生産性を高める 金型・成形法の工夫

九州工業大学 鈴木 裕\*

型を用いた生産は、生産スピードの向上、工程数の削減、自動化・省人化、歩留まり改善といった要因に大きく貢献している。その結果、製品あるいは部品の高品質化と高生産性を実現し、型技術そのものが日本の製造業を支えていると言っても過言ではない。前号(5月号)に引き続き、特徴ある金型・成形法を紹介する。

\*Hiroshi Suzuki: 情報工学部 機械情報工学科 教授、先端金型センター長  
〒820-8502 福岡県飯塚市川津 680-4  
TEL (0948) 29-7903

## 日本の金型産業に関して

図1に、日本工作機械工業会が発表した2011年3月までの工作機械受注額の推移を示す。グラフには、内需、外需および総額の受注額が棒グラフにより、また自動車、航空機、金型向けの受注額が折れ線グラフにより示されている。受注額の推移を見ると、世界同時不況時に急激に落ち込み、その後徐々に回復し、2011年3月時には、ピーク時の8割強まで回復している。

この回復を支えているのは、旺盛な外需であり、国別では、中国、アメリカ、韓国、ドイツ、タイと続いている。内需に関しても回復傾向は見られるが、業種

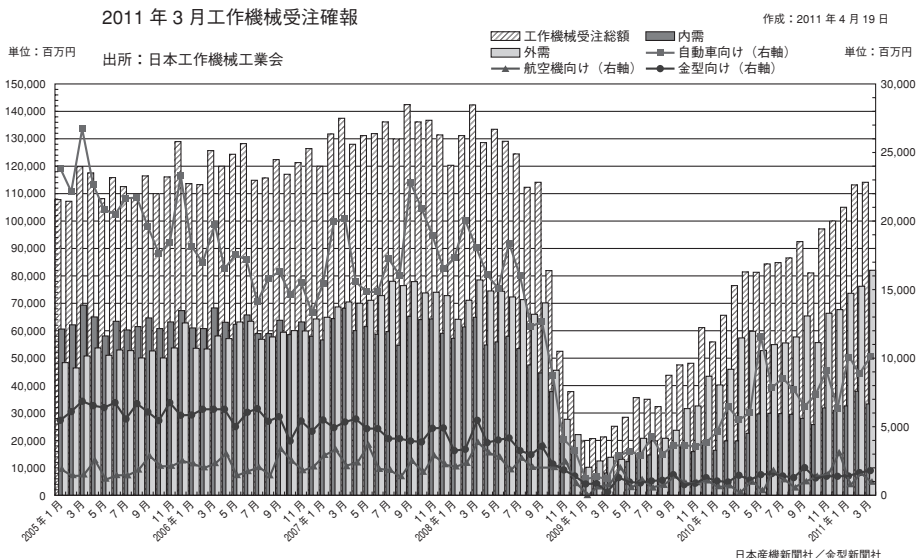


図1 工作機械の受注量の推移 (金型新聞社より提供)